

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
子どもの保健Ⅱ Child Health II		1年	後期	火曜日・2時限、3時限 水曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
長谷川久美子		非常勤 講師室	授業中に指示します	授業中に指示します
授業の概要				
子どもの健康と安全を最優先課題とし、個々の子どもの心身の状態や発達の過程を踏まえて行う的確な保健的対応、及び子ども集団全体の健康と安全について、具体的・実践的な視点で学ぶ。さらに、学生自身は保健衛生に関心をもち、時代背景を踏まえた健康教育や安全教育を実践するための専門的・基本的知識の習得と科学的な根拠に裏づけられた技術の必要性を理解する。				
授業の到達目標				
①子どもの健康及び安全に係わる保健計画や評価について学ぶことができるようにする。②子どもの健康増進及び心身の発育発達を促す保健活動や環境を考案することができるようにする。③子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶことができるようにする。④救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶことができるようにする。⑤現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解することができるようにする。				
授業の方法				
保健演習では、理論に裏づけられた根拠を基に体験的学習を重ね、保育技術の向上と専門性の習得を図る。講義、実技指導、事例紹介などを取り入れて知識・技術を習得する。				
学習の成果				
①「子どもの保健」の専門的・基本的な知識を基に、科学的根拠の裏づけを持った技術を習得することができる。 ②子どもの健康管理、成長発達や養護に必要な具体的な方法を体験的に学び、実践のスキルを身につけることができる。 ③子どもの心身の健全な発育発達を促すためには、母子保健対策を始めとして、具体的・継続的な保健計画に沿った保健活動の重要性が理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスに沿って概要説明)			
第2回目	保育に必要な保健演習	子どもの養護に必要な保健演習の意義と基本		
第3回目	子どもの保健と保育者の保健	保育者の健康管理	手洗いの意義と実際	
第4回目	子どもの保健と環境	乳幼児の養護	生活リズムの形成	
第5回目	乳幼児の身体計測	身体計測の意義	身体発育の評価方法	
第6回目	身体発育評価演習	演習問題 (発育指数の計算・発育曲線記入)		

第7回目	身体発育評価	発育経過からみた評価	身体計測の実際
第8回目	身体計測演習	乳幼児の身体計測と記録	
第9回目	乳幼児の生理機能の測定	乳幼児の精神・運動機能の発達評価	
第10回目	生理機能の測定演習	生理機能の測定と記録	
第11回目	乳幼児の異常症状と手当	保育における主な症状の見方と対応	
第12回目	乳幼児の事故と応急手当	乳幼児と事故	応急手当
第13回目	乳幼児の事故と応急手当	救命処置 (心肺蘇生法)	
第14回目	集団保育と保健	集団保育の保健対策	保護者への支援
第15回目	まとめと試験		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点は積極的に質問したり、自分の意見を明確に述べることができる等々。
レポート		20%	詳細に課題を探索し、内容構成がしっかりしており、課題の要件を満たしている。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		60%	学習の評価は、学期末試験の評価基準C (60~69) 以上とし、子どもの健全な成長発達過程において必要な知識・技術について理解できている。
発表内容 (態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書：「子どもの保健演習ガイド」 高内正子編著 建帛社 参考図書・参考資料：授業の中で適宜指示またはプリント配布			
履修上の心得・ルール			
始業時間を守り、目的意識・課題意識を明確にして授業に臨む。			